

城と史蹟を歩く会 平成16年後半のスケジュール (最終号)

第31回=5月8日(土曜日=予備日15日) 新緑の鎌倉名越の切り通しを歩く
 乗車券=ホリディパス2300円(八幡宿、五井、姉ヶ崎)
 往路=八幡宿7時04分(快速久里浜行=前から1~3両乗車)東京7時56分、鎌倉8時52分着、東口(八幡宮側)改札口前集合、3番バス停9時15分緑ヶ丘行き乗車、名越下車
 移動=緑ヶ丘13時57分(バス5分)名越(後抜けは鎌倉まで先行してください)
 復路=鎌倉16時45分(快速久里浜行=前から1~3両乗車)八幡宿18時41分着
 主要コース=妙法寺(有料)、安国論寺(有料)、名越切通し、お猿畑の切岸、奥の院(昼食)、(以降有志のみ)安養院、常栄寺(ぼたもち寺)、妙本寺、大巧寺、鎌倉駅
 注意事項=多少急坂があります。足に自信のない方は後抜けして買い物をお楽しみください。
 会費=有料2か寺含め1000円 申込み=10日前までに世話人へ

第32回=6月2日(水曜日=予備日4日) 柳沢吉保の六義園と旧古河庭園、とげ抜き地蔵を歩く
 乗車券=東京自由乗車券1810円(八幡宿、五井)
 往路=八幡宿8時09分、蘇我16分着、29(36)分(③番線京葉快速、前の方乗車)東京9時19(24)分着、山手線経由、駒込10時ころ北口改札前集合
 復路=巣鴨駅、東京、京葉線経由、八幡宿18時30分ころ着
 主要コース=六義園(柳沢藩下屋敷=有料)、旧古河庭園(明治の大邸宅庭園=有料、昼食)、染井霊園(鶴舞井上正直の墓)、本妙寺、高岩寺(とげ抜き地蔵)、真性寺(江戸六地蔵)
 会費=600円(有料箇所は年齢制のため当日連絡) 申込み=10日前までに世話人へ

第33回 8月4~6日のうち(公民館確保できる日) 夏期研修会
 場=八幡公民館視聴覚室13時30分~16時30分 内容などの詳細は別途連絡します。

第34回=9月19日(日曜日=予備日20日) 鎌倉の朝比奈切通しと釈迦堂口を歩く
 乗車券=ホリディパス2300円(八幡宿、五井、姉ヶ崎)
 往路=八幡宿7時04分(快速久里浜行=前から1~3両乗車)東京7時56分、鎌倉8時52分着、東口改札口前集合、⑤番バス停留場9時30分八景行き乗車2300円、朝比奈下車
 移動=十二所(または泉水橋)(バスおよそ7分)浄妙寺
 復路=鎌倉16時45分(快速久里浜行=前から1~3両乗車)八幡宿18時41分着
 主要コース=広常やぐら、朝比奈切通し、梶原太刀洗い、光触寺(昼食)、浄妙寺(鎌倉五山5位)報国寺(竹寺)、釈迦堂口(巨大な粗彫りトンネル)、杉本寺(鎌倉最古の名刹)
 注意事項=多少急坂があります。足に自信のない方は後抜けもできます。
 会費=有料3か寺含め1100円(つり銭なしで用意すること) 申込み=10日前までに世話人へ

第35回(最終回)10月23日(土曜日) 信濃路の小諸城と上田城を歩くバスツアー
 往路=五井駅東口5時45分、八幡公民館6時00分、蘇我駅西口15分(15分前集合)、湾岸、首都高、関越自動車道、上信越自動車道、小諸IC
 復路=上田IC、往路を逆走、出発地20時30分ころ着
 見学地=小諸城(千曲川と藤村の古城)=旧本陣、大手門、懐古園、天守台、酔月橋、水曲輪展望台
 上田城(真田昌幸居城)=お館跡、2の丸、櫓門、北南西櫓、本丸跡、真田神社、尼ヶ淵
 参加費=6500円(会費、バス、入館料、昼食、保険料を含む)
 受付=8月の第33回夏期研修会で。定員(49名=補助席使用しない)次第打ち切り

休会のお知らせ

4か年間にわたった歩く会も今号をもっていったん休会とします。残り5回、万障くりあわせご参加ください。

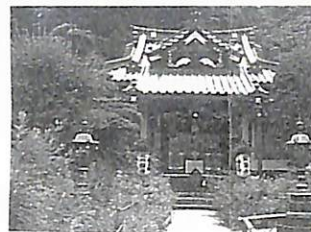
参加申込み方法の変更(重要)

- ①会員は原則全回参加、欠席の時、事前連絡することになっていますが、無届け欠席が多く、資料作成、雨天連絡などに支障を来しています。以後事前申し込み制とします。申込みない時、資料などの用意ができない場合があります。
- ②申込みは前企画時か、開催10日前までに担当世話人に。電話連絡は午後6時から8時の間をお願いします。

連絡と注意事項

- ①コースは下見、天候などで変更することがあります。
- ②運営はボランティアです。進行に協力願います。
- ③特記以外、保険はありません。万一の責任は負えませんので各自ご注意ください。
- ④雨天中止の場合、前日または当日早朝、電話連絡します。

城と史蹟を歩く会 会長(講師)=山岸弘明 42-2237
 事務局長=小出惣治 41-1750
 世話人 =高澤恒子 21-4053 鷲津寛子 41-5101
 藪本テイ子 41-7005 高澤 毅 41-2458
 国分三男 41-9793 (局番各0436)



常栄寺



奥の院の景観



安養院

お猿畑の切岸



安国論寺 ↑

妙法寺 →



才31回名越切通し



とげ抜き地蔵



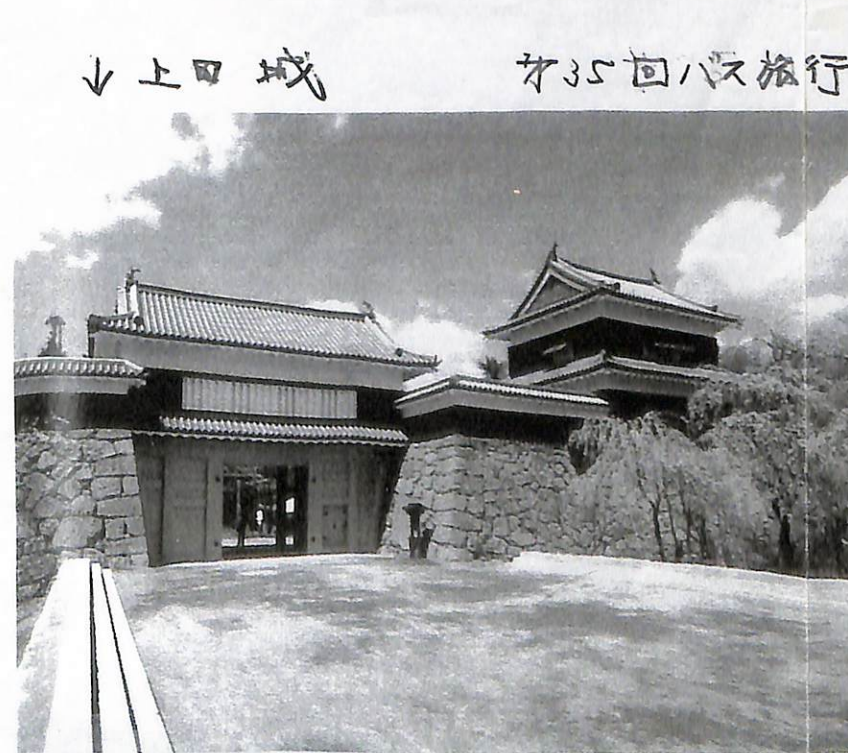
旧古河庭園

才32回

六義園



小諸城 ↓



↓上田城

才35回バス旅行



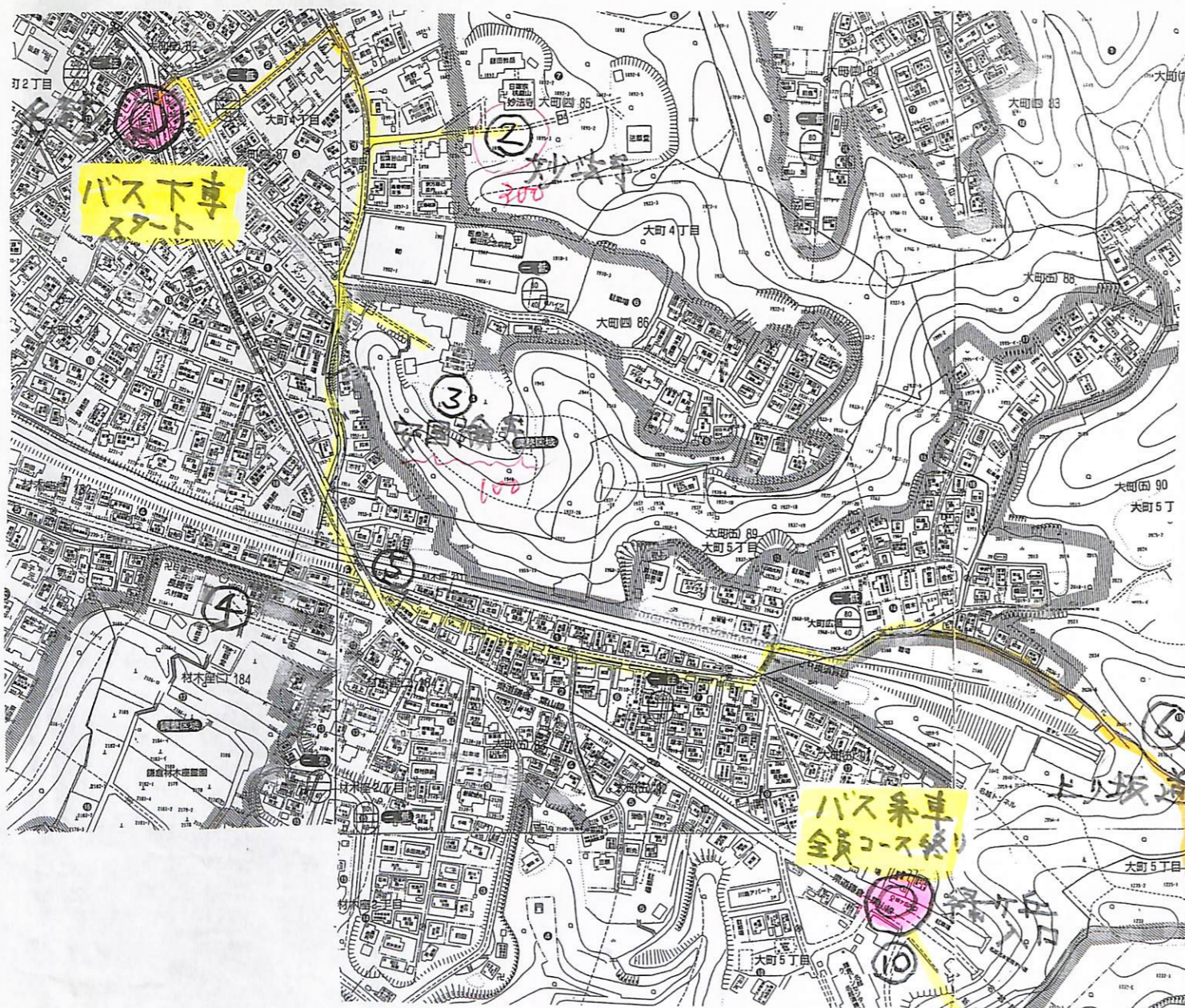
←朝比奈切通し

才34回 2年ぶりの朝比奈

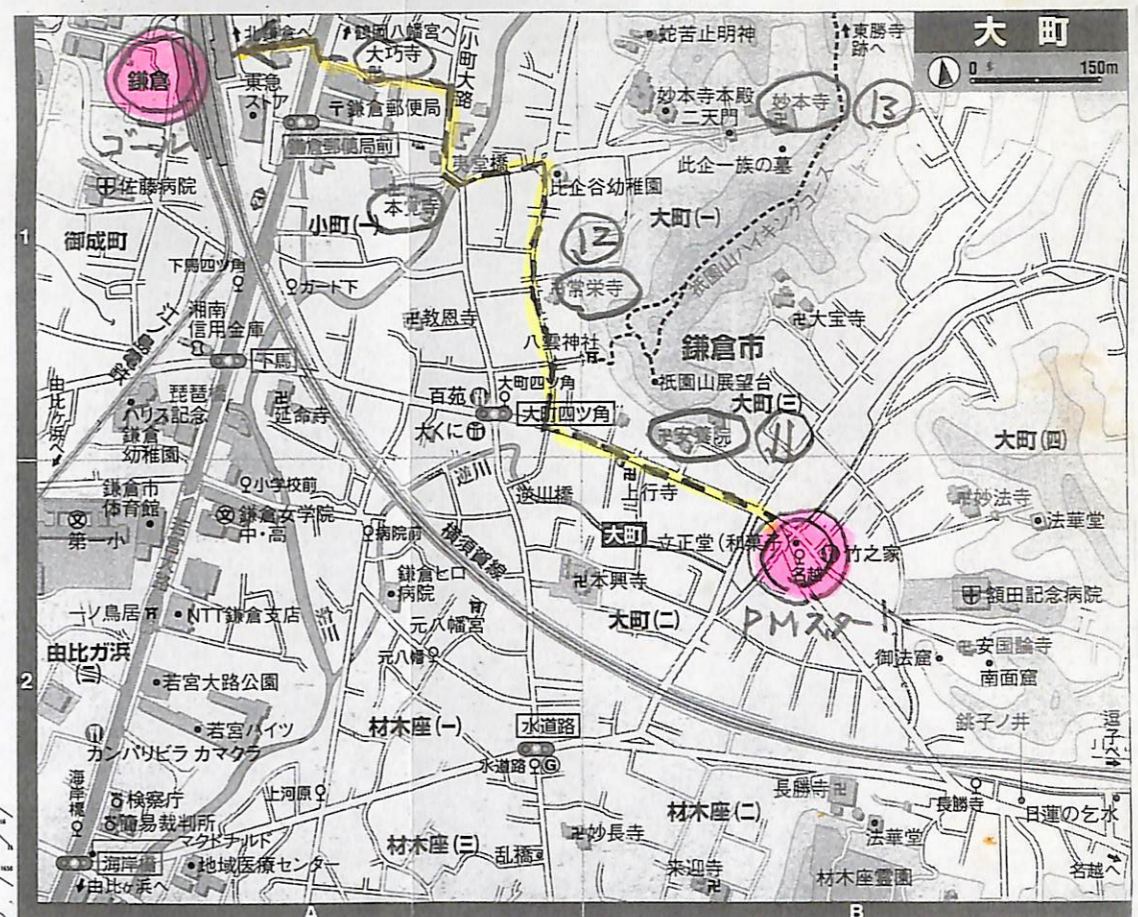


→ 釈迦堂口





全員コース
(おおよそ3km = 74歩)



お猿畑の切岸

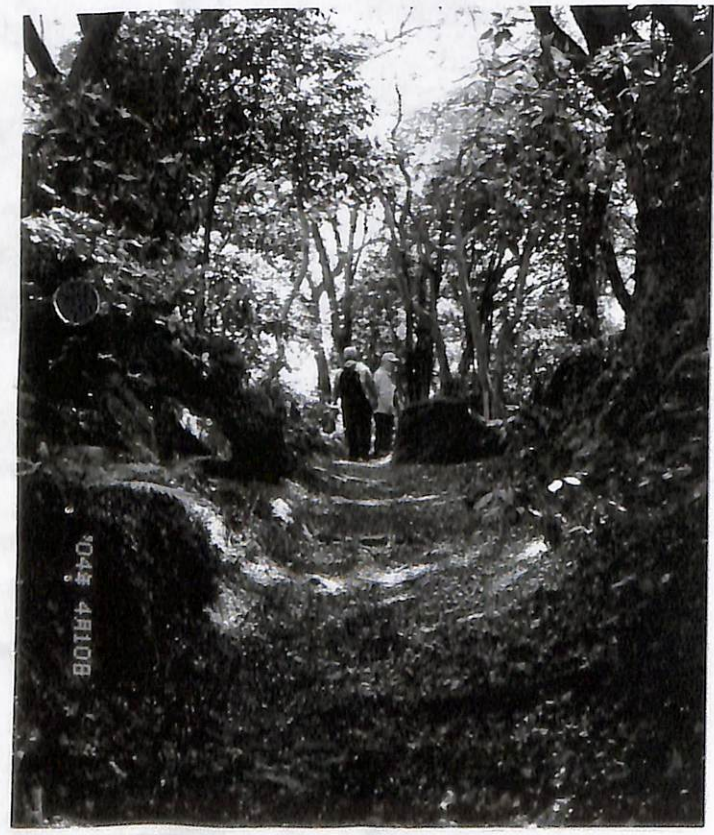


若んぢう堂(恒向か)

城と史跡を歩く会*第31回「新緑の鎌倉名越の切通しを歩く」資料	
<日時>	平成16年5月8日(土曜日=予備日15日) バス亭で合流
<交通機関>	乗車券=ホリディパス2300円(八幡宿、五井、姉ヶ崎とも) 往路=八幡宿7時04分(快速久里浜行=前から1~3両乗車)東京7時56分、 鎌倉8時52分着、東口(八幡宮側)改札口前集合、開会式 3番バス停9時15分緑ヶ丘行き乗車8分170円、名越下車 バス移動=緑ヶ丘13時57分乗車3分170円、名越(後抜けは鎌倉へ直行) 復路=鎌倉16時45分(快速君津行=前から1~3両乗車)八幡宿18時41分着
<主要行程>	妙法寺、安国論寺、名越切通し、お猿畑の切岸、奥の院(昼食)、法性寺、緑ヶ丘 (以降有志で)安養院、常栄寺(ぼたもち寺)、妙本寺、大巧寺、鎌倉駅 注意事項=多少急坂があります。足に自信のない方は有志行程を後抜けしてください
<会費徴収>	受付時に有料2か寺含め1000円を徴収します

ご案内 山岸弘明

- 1) 名越切通しと日蓮の道 (はじめに)
- 鎌倉七口=切通しは山や丘を切り開いて通した道という。南面に相模湾、三方を山に囲まれた鎌倉(城)は、外敵を寄せつけない天然の要害でもあったが、一方で交通難所という欠点も合わせ持っていた。鎌倉七口は敵の侵攻から鎌倉を守る7か所の虎口で、名越、朝比奈、巨福呂(こぶくろ)、亀が谷(かめがやつ)、化粧(けわい)坂、大仏坂、極楽寺坂の切通しをいう。名越は鎌倉から三浦に通じる要路で、かつて日本武尊(やまとたけるのみこと)東征の古東海道ともされるが明確ではない。鎌倉から久里浜に向かうJR横須賀線トンネルの上に旧道がひっそりと残されている。最大の見どころはお猿畑の切岸。長さ800mにもおよぶ人工崖の迫力が急坂の疲れを一気に吹き飛ばしてくれる。法性寺奥の院周辺で昼食。相模湾が一望、初夏の新緑がまぶしい。
 - 名越切通し前後の行程は日蓮聖人のゆかり寺を巡る。日蓮が鎌倉にきて初めて草庵を結んだ妙法寺、松葉谷法難のとき身を隠したとされる岩屋と法性寺、「立正安国論」を書いた安国論寺、瀧の口刑場に向かう途中の伝説「首つなぎばた餅」の常栄寺などなど。元気組が布教の足跡を辿る。



日蓮の一生 (年齢は教えどし)

1222年・1歳	安房国(いまの千葉県)小湊に漁師の子として生まれた。
1233年・12歳	清澄山に登り、16歳で僧となる。
1238年・17歳	鎌倉・京都・奈良などの寺をまわって修行をする。
1253年・32歳	清澄山に帰り、名を日蓮とあらためて日蓮宗を開いた。
1260年・39歳	『立正安国論』を幕府にさしだす。
1261年・40歳	伊豆に流される。
1263年・42歳	ゆるされて鎌倉にもどる。
1271年・50歳	佐波に流される。
1274年・53歳	ゆるされて身延山(いまの山梨県)にこもる。
1282年・61歳	武蔵国(いまの東京都)池上でなくなる。

名越切通し
日本武尊も通った?
鎌倉から三浦へ通じる。名越トンネルの上に、かつての切通しの面影はのこっている。道筋は、日本武尊が東夷を制する際に通った古東海道筋ではないかとみられる。文献のうえで、はじめて「名越坂」の文字が確認されるのは「吾妻鏡」の天徳元年(1233)8月18日のくだりだ。かつては鎌倉と三浦の境界をなした切通しは、いま鎌倉市と逗子市の境になっている。



- 妙法寺 (こけの寺=大町4、有料)
 - 日蓮宗。13世紀中ごろの建長5年、日蓮聖人が安房から鎌倉に出てきたときはじめて草庵を結んだ所。長勝寺など諸説中最有力地という。文応元年、反対派によって草庵を焼き討ちされる松葉谷法難が興り白猿の助けで裏山に逃れたとされる。
 - 14世紀中期、延文2年大塔宮護良親王の子日叡創建。親王は父後醍醐天皇に対立する足利尊氏の暗殺を企てるが果たせず、鎌倉に幽閉された。日叡が父親王、母南の方の墓を建立。
 - 本来、総門、仁王門、釈迦堂を直線で結ぶ伽藍配置だが、総門と苔石段を迂回、釈迦堂は現存しない。山腹一段高い所に日蓮聖人草庵跡、大塔宮、南の方眠る。本堂=総けやき造り。江戸後期文政年間、熊本細川家建立。本尊一塔両尊四師と日蓮聖人坐像。天井、欄間の絵や彫刻がすばらしいが非公開。苔の石段=苔むす鎌倉石の石段、両側に白いシャガの花が咲き誇る。立ち止まって鑑賞。法華堂=文化年間、水戸徳川家建立。宝形造り屋根の流れが美しい。本尊は開山日叡上人
 - 10分間自由行動。境内花の名所を楽しむもよし、健脚者は奥の院草庵跡、大塔宮、南の方墓所へ。
- 安国論寺 (松葉谷根本霊場=大町4、有料)
 - ここも日蓮草庵伝承地の一つ。日蓮は法華経を唯一正しいものとしてこの地で「立正安国論」を書き、北条時頼に送った。相次ぐ天災、飢饉、疫病は邪教の流行が原因として批判、治国安民のため法華経以外を退けるべきとした。このため反対宗徒に反日蓮運動が高まり、松葉谷夜討ち、伊豆、佐渡への島流しへとエスカレートしていった。
 - 本堂前の妙法桜は日蓮の桜の杖が根づいたとされ、カイドウ、サザンカの巨木は天然記念物に指定されている。
 - 南面窟=日蓮が「立正安国論」を書いたとされる洞窟 日朗上人茶毘所



宮將軍・護良親王の失脚

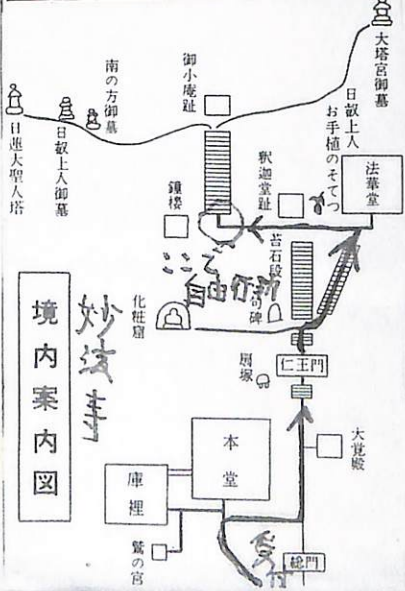
護良親王(下肖像・矢先稻荷神社蔵)の勢力は開元後数ヶ月で弱まっていった。征夷大將軍を解任され、彼の発した命令も無効とされた。一方、足利尊氏との対立は表面化しつつあったが、力関係では完全に不利な状況であった。そこで親王は、起死回生の策で尊氏暗殺を謀ったのである。しかし暗殺計画は未然に発見し、1334年(建武元年)10月22日、参内してきたところを後醍醐天皇の命により捕らえられ、鎌倉に送られてしまう。実は尊氏暗殺の黒幕は後醍醐天皇本人であったといわれており、計画が失敗すると天皇はすべての罪を護良親王にかぶせたのであった。親王は亡くなるまで、尊氏よりも裏切った天皇のほうを恨んだという。



南の方の墓

妙法寺

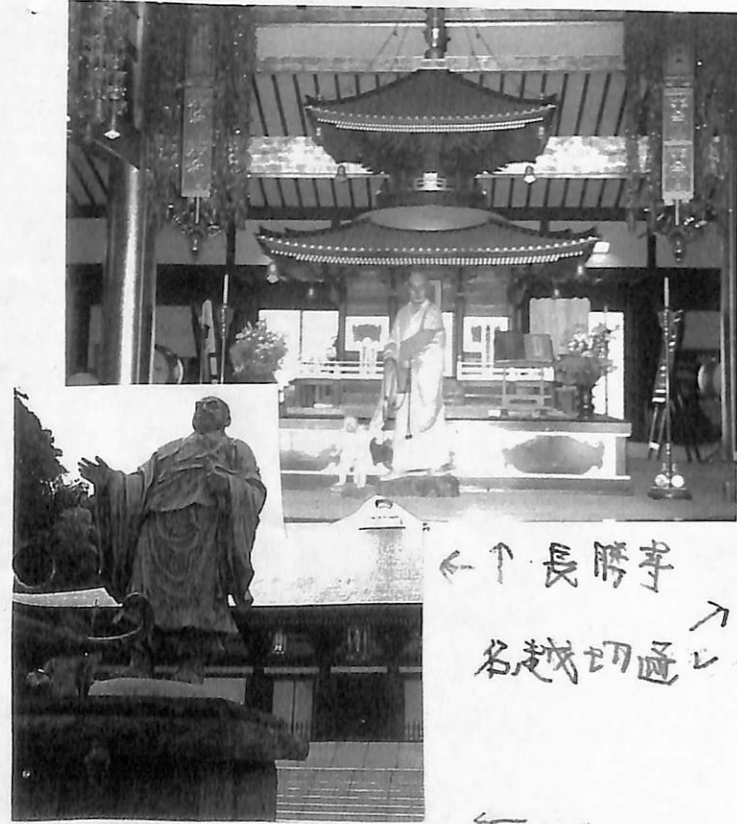
↓ 安国論寺



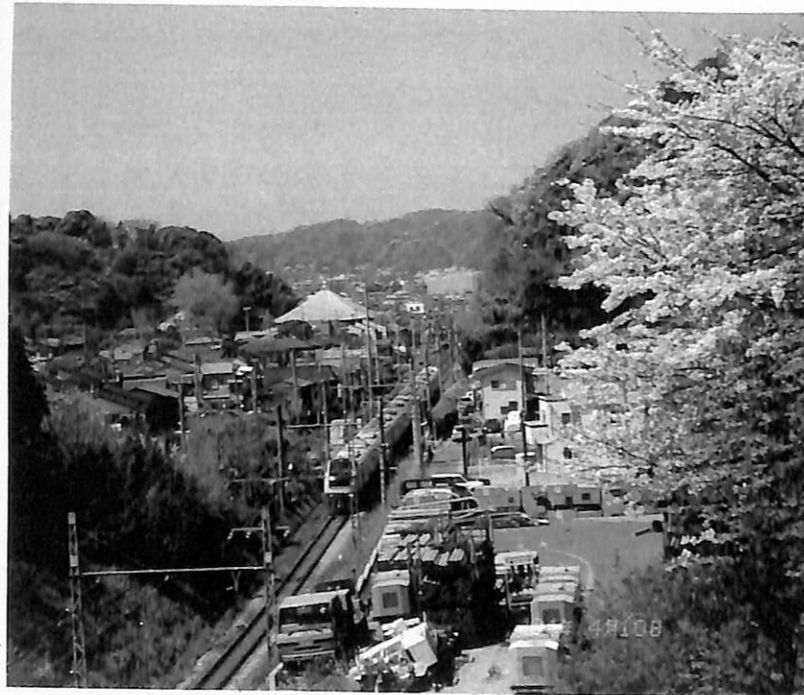
松葉ヶ谷御小庵跡
建長五年四月(二五三)
日蓮聖人は安房国清澄寺で日蓮宗を開き、同年夏鎌倉名越に來られ小庵を結び題目を高唱し立正安国を力説し文永八年九月(二五三)まで布教指導の拠点とされた庵の遺跡であります。



- 4) 長勝寺 (材木座2=遠望)
 - ① 13世紀の弘長3年、日蓮に帰依した石井長勝が創建。室町はじめ建造の祖師堂、参道に高村光雲作の日蓮大銅像などがある。毎年2月の荒行が有名。
- 5) 銚子の井と日蓮乞水 (大町)
 - ① 銚子の井=鎌倉10井の一つ。お酒を注ぐ銚子に似た形をしていたことから命名。
 - ② 日蓮水=鎌倉5名水の一つ。日蓮が杖を突き刺すと泉がこんこんと湧き出たという。
- 6) 名越切通し (大町、逗子市久木)
 - ① 当時の雰囲気の色濃く残す切通し旧道。JR横須賀線名越トンネル脇のやや急坂を周囲の新緑を楽しみながらゆっくりと登る。
 - ② 置石=兵や騎馬の移動を邪魔するためにわざと据えられた大石。かつて切通しの各所に配置されたが、現存は頂上近くの1か所。旅人の難儀が思い知らされる。
 - ③ 平場=後世の升形に相当するやや広い空間。誘いこんで周囲の山から弓矢を射かけ、石などを投げつけて攻撃する。
 - ④ 平場(本陣?)=守備側兵士たちの本拠。ここでは切通しを挟んだ両側高台に守備隊をおいたものだろうか。
 - ⑤ まんだら堂跡(閉鎖中=遠望)=時代、人物不明のやぐらや石塔多数が並ぶ。花の名所だが、史跡調査のため立ち入りはできない。
 - ⑥ 通行禁止の切通し箇所=岩肌もあらわな急崖の切通し。迫力はあるが落石の危険があるため通行禁止。覗きこんでUターン。
 - ⑦ ミステリーの洋館=何とも奇妙な建物。住宅図を開くと祓川宅とある。億万長者の別荘だろうか?
 - ⑧ 市指定史跡石造建造物石廟2基=珍しい家形の墓石。葬者は不明だが中世豪族とみられる。



←↑長勝寺
名越切通し→



日蓮乞水
石廟→



- 7) お猿畑の切岸 (久木)
 - ① 凝灰岩の岩肌を人工的に切岸した延長800mほどの垂直の岩壁。名越切通し最大の見どころ。段々畑の奥に壮観な壁のパノラマが広がる。一見1枚岩のようだがよくみると数段に分かれている。鎌倉防衛の防波堤的な役割を果たしたとされる。
- 8) 奥の院 (久木=昼食)
 - ① 後出法性寺奥の院。日蓮の高弟、開山日朗の墓。
 - ② 山王権現と日蓮の洞窟=日蓮が松葉谷草庵の法難にあったとき、身を隠した洞窟。3匹の白猿が食物を運んだといい、日蓮は山王権現の導きとした。



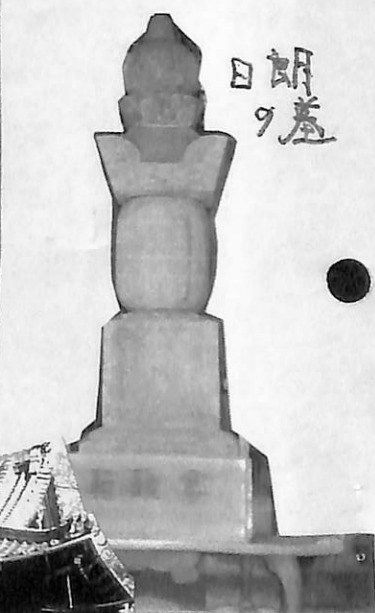
まんぢう屋入口



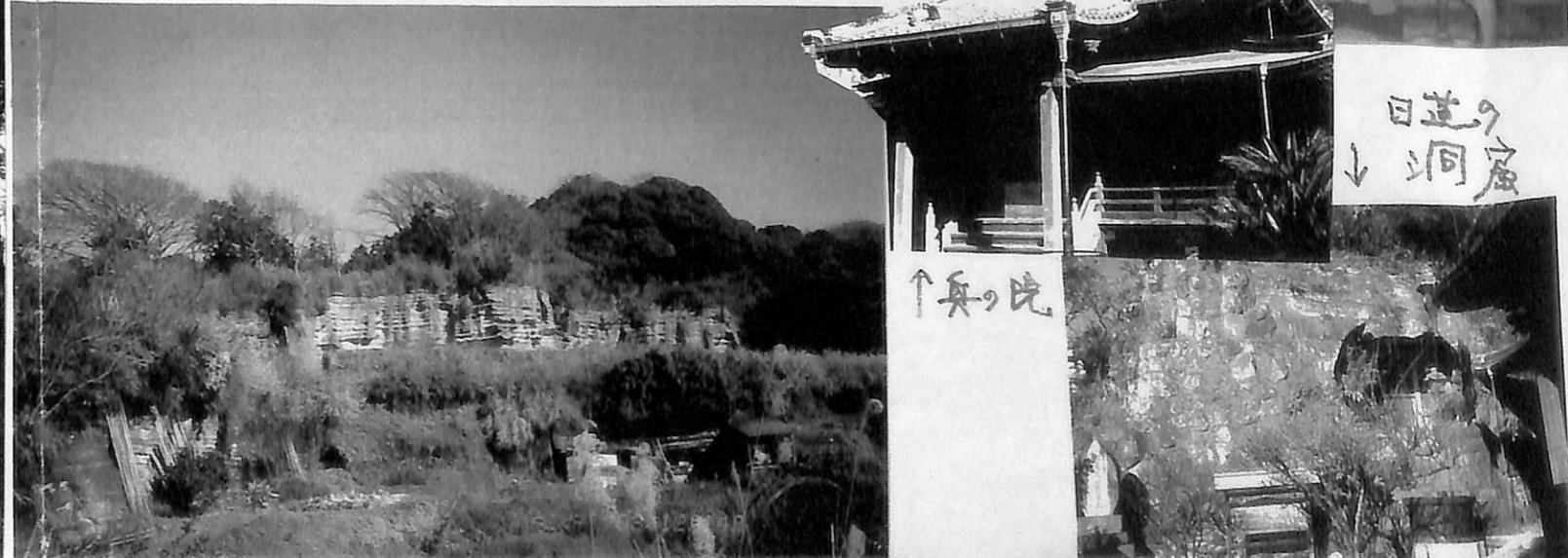
←ミステリーの洋館



↑通行止もある
置石→
↓お猿畑の切岸



日朗の墓



日蓮の洞窟
↓

↑兵の院

- 9) 法性(ほっしょう)寺 (久木)
 - ① 日蓮宗。日蓮を救った白猿の寺。日蓮の遺命を受けた日朗とその弟子朗慶が建立。
 - ② 山門の扁額は猿島(えんぱく)山、左右に2匹の猿を彫刻。
- 10) 緑が丘入口バス停 (いったん解散、鎌倉駅行き乗車=小坪)
 - ① 名越トンネルをおよそ10分ほど移動して緑が丘バス停へ。ここで一応の解散。元気組の日蓮の道グループと普通組に分かれる。
 - ② バスは30分間隔、両組とも13時57分乗車目標。元気組は2つめ3分170円名越下車、以降、日蓮の足跡をたどって鎌倉駅まで歩く。
 - ③ 普通組はそのまま鎌倉駅まで直通、電車時間まで駅周辺で買い物、散策、お茶などをお楽しみください。
- 11) 安養院 (鎌倉最大のつつじ名所=鎌倉市大町)
 - ① 本日唯一の浄土宗。山号祇園山。13世紀の嘉禄元年、北条政子が夫源頼朝の菩提を弔うため創建。板東33所観音3番札所。田代観音。
 - ② 安養院(伝開祖尊観上人)の墓=徳治3年(1308)鎌倉現存最古。関東様式の壮麗な宝篋印塔。
 - ③ 北条政子供養塔=二位ノ尼、安養院殿如実妙観大禅定尼、嘉禄元年を刻む。頼朝の墓もあったとされるが現存していない。
 - ④ 鎌倉1のつつじの名所。300本の大株が境内いっばいに広がる。マキの巨木=樹齢700年。みごとな枝ぶり。市指定天然記念物。

- 12) 常栄寺 (ぼた餅寺=大町)
 - ① 源頼朝が由比が浜を遠望するために作らせた棧敷の麓に日蓮宗の信者「棧敷の尼」と呼ばれた老婆が住んでいた。「立正安国論」をとねた日蓮が囚われの身となり、龍の口の刑場に送られるとき仏の加護を念じた尼がぼた餅を差し出したところ、刑場に雷鳴が轟いて法難を免れたという。後、故事由来地に日蓮宗の一字を創建して、尼の法名を寺名とした。
 - ② 山門正面に均整の取れた小さな本堂。左に棧敷の尼の墓も。
- 13) 妙本寺 (比企寺=大町)
 - ① 鎌倉最大の日蓮宗の寺。源頼朝の鎌倉幕府創立に貢献した比企能員の屋敷跡で、比企三郎開基、一族のゆかり寺。13世紀はじめの建仁3年、勢力の拡大を恐れた北条時政に攻められ、一族100余人が邸内に火を放って悲劇的最後を遂げた。境内に一族が眠る。4基中最大の五輪塔は一幡(いちまん)の墓。能員の娘若狭局と2代將軍頼家の嫡男。わずか6才の死は人々の涙を誘ったという。
 - ② 総門をくぐると杉の巨木が立ち並ぶ参道が続き、正面に二天門、奥に本堂の祖師堂がある。大きな境内は格式の高さを窺わせる。
- 14) 本覚寺 (日朝さま=小町)
 - ① こども日蓮宗。15世紀の応永28年創建。2代日朝の時栄えたので「日朝さま」、日蓮の遺骨を分骨したので東身延とも呼ばれる。
 - ② 戦後再建の本堂を中心に重層の仁王門、夷堂、鐘楼など。本尊は釈迦三尊。
 - ③ 正宗の墓=室町時代、新田義貞の鎌倉攻めに従った相州伝刀匠の一人。強靱で切れ味のある刀造りを追求して究極の相州伝を完成させた。
- 15) 大巧(だいぎょう)寺 (おんめさま=小町)
 - ① 源頼朝評定所=頼朝がこの寺で作戦を立てたところ大勝。また、安産祈願に靈驗あらたか。
 - ② 小さな境内いっばいにいろんな庭花が咲き乱れる。

大巧寺から鎌倉駅まで3分。おみやげは鎌倉代名詞ともなっている豊島屋の「鳩サブレー」か、井上かまぼこ店の「梅花はんぺん」「小判揚げ」。ともに駅前1分。駅構内売店の「押鮓」もおすすめです。



安養院



天然記念物マキ



↑法性寺



猿の扁額



常栄寺(ぼたもち寺)



本覚寺

↓大巧寺



「災環」永井路子
主人公北条時政は頼朝の妻政子の父。初代執権として鎌倉幕府の実権をにぎった。關権を手中にしようと、御家人が権謀術数のかぎりを尽くしていた時代。頼朝の跡をついだ頼家の乳母、妻がともに比企の縁者だったことから、北条にとり比企は目ざわりな存在だった。釈迦堂口で、眼下の比企の屋敷をみつめる時政の「目は次第に敵しくなり」「急げ」というなり彼自身も一躍かれて馬ととも坂道を一気にかけおりた。

↑比企一族の墓



↑妙本寺



鎌倉駅前

井上かまぼこ店

